

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100028		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO 共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成22年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が天羽苑に住んで良かった。と言っていただけよな環境作りや相互の信頼関係を築き、家庭的なサービスを提供する。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、三施設一体型事業所で、不入斗ののどかな田園の中にあり、敷地は広く野菜畑も所有している。地域住民との交流は、季節の野菜の差し入れや、近くの雑貨屋さんでお茶を頂きながら四方山話をするなどの寛ぎがあり、都会にはない助け合いと優しさがある。また事業所では3施設一体の特徴を生かしてカラオケ大会を開催し、近隣住民の参加を促している。食事は管理栄養士の献立をベースにして職員が交代で担当し、食べやすく、美味しく、新鮮な家庭料理を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には理念が浸透していて、特に「心」の大切さを理解し、利用者第一に考える支援を行っている。	「知識・技術・心」の理念を掲げ職員に周知を図っている。特にその人らしい生活を地域の中で実現するために一人ひとりの思いや心を大切にし、利用者に不用意な待たせ方をしないなど常に「心のサービス」を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校や商店との交流があり、視察旅行や懇談会のお誘いもある。また、地区社協会長や地区民生委員との連携が図られている。	地域の行事や催事、懇談会に参加している。また、利用者と近くの雑貨屋に立ち寄り近隣の住民とお茶を飲みながらよもやま話をするなど地域からも受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度、家族や地域の方に参加してもらい、会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2度の運営推進会議を行い、地区の区長や民生委員の方との連携を構築している。	会議では入居者状況、行事の経過・予定、苑の取り組み等を報告している。また、外部評価結果や事業計画等の報告も行い、出席者の意見や要望を訊いている。結果として区長や民生委員との連携が深まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者が、市の職員で居る為、こまめに連絡を取り合っており、情報交換している。	生活保護の受給者が2名入所していることもあり、市の担当職員が毎月1回来所する。管理者も毎月1回介護保険審査会に出席し、担当職員と接する機会をもち、事業所の運営等に関する様々な情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解できているとは思わないが、業務の中で教育している。	職員には会議や実務の中で身体拘束またはその類似行為について理解の促進を図り、見守りを主とした支援に努めている。また、精神薬の減少にも努め、施錠についても心配りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へは順番で、積極的に参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を活用している利用者もいるので、勉強になる面もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなか家族からは意見を出しづらいのか、要望は直接にはない。利用者調査の結果を参考。	家族の来所の都度、要望や意見を引き出すように努めているが、感謝の言葉が多く意見や要望は殆どない。然るに外部評価での家族の意見を職員とともに検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで改善策や提案は聞いている。それについて必ず、話し合い答を出している。	日常の支援業務の中で出される意見や提言のほか毎月1回職員会議を開催し、職員から出される意見や提案を全員で検討している。また、その結果をサービス提供に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はこまめに施設を巡回し、職員の勤務状況を確認し、評価に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長会議などの場や、普段の施設巡回時に助言をしてくれる。研修へは積極的に参加させる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を多く持つよう助言する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは毎日必ず関わりを持ち、会話を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず家族と話をしたり、入所の翌日には必ず本人の様子を電話で伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスという、現在は協力病院の居宅療養管理指導のみ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩だということを日頃より職員に理解させ、同等ではなく自分の立場を認識しながら、良好な関係を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会にきていただけるよう、家族にお願いし、関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に対し、利用者との絆が途切れることの無いように正月などは外泊を受け入れるよう働きかけをしている。	鯉幟や紅葉を見に行くなど馴染みの場所との関係を維持している。部屋には使い慣れた家具の持ち込みを奨励し、生活空間に違和感が生じないように配慮している。また、家族にも自室での面会をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく談話室で、皆さんで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所であれば、経過を伺ったり、それ以外であれば家族を訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で確認し、把握している。	利用者の介護度が高く、その希望や意向の把握に難しさはあるが、出来るだけ一人ひとりの思いを汲み取り支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人の生活歴を家族より詳しく聞いて、なるべく生活習慣を変えずに過ごせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝はバイタル測定し、健康状態の把握をし、日中はその人の状態にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来苑時に、現在の利用者の状態を報告したり、会議で職員が意見を出し合い、計画に繋げている。	アセスメントとモニタリングを行い設定期間ごとの介護計画の見直しを行っているほか、本人の状況変化や家族の要望等を踏まえて適宜計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に記入し、出勤時に職員は必ず目を通し、申し送りノートを活用することにより、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人それぞれのニーズや、状況に合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全て職員がやるのではなく、自分で出来ることはやれるよう、見守りをして安心して暮らせるよう、支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員は、協力病院による居宅療養管理指導にて、健康の維持や病状の安定を管理し、緊急時にも連携している。	月に2回、協力病院の医師が来所し、利用者の検診を行っている。また、点滴等日々の看護が必要とされる場合については、同院の看護師が毎日でも来所し、対応してくれる。必要に応じて歯科医師の訪問治療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きはすぐに、報告、連絡、相談しあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過を聞き、確認し、面会に行ったりしている。退院時には看護サマリーをいただいたりして、常に情報の共有化に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設や協力病院が連携して支援できる範囲内で医師、家族、職員で話し合い、家族には同意書をいただいている。	終末期の支援について、家族の同意は得ているが、事業所が支援できる範囲に配慮しながら協力病院との連携を図ることを基本としている。また、利用者の重度化についても同法人内他施設の協力を得る体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に全て利用者の情報がわかるファイルを作り、他のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得た訓練の実施を検討中であり、地域推進会議等で区長に働きかけている。	3施設が一体となって災害時の避難訓練を実施しているが、地域住民との協力体制は構築途上にあるため継続的に区長への働きかけを行っている。	災害時に素早く対応するため、近隣に協力を得られやすい関係づくりが望まれます。早い時期に地域との協力体制が構築されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の人だという認識を職員に持たせ、受容的態度で接している。	言葉づかいに注意し受け入れを旨とした態度で利用者に接し、信頼関係の構築に努めている。夜のみのおむつ利用者のパットの交換はトイレ時に外すなどプライバシーへの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好みや外出したい場所や思っていることを時々聞いてみる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、時間にとられず、利用者のペースを最優先にして過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣は大切にし、歯磨き、顔を洗う、髭剃りなどの整容や、身だしなみは欠かさず行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	例えば食べたいものを聞いても、なかなか案は出てこないで、職員が気づかう。テーブル拭きや、食器を拭くのはできる方にやってもらおう。	法人内他施設の管理栄養士の献立をベースに、当事業所の職員が交代で担当し、利用者が食べやすい、美味しい、新鮮な、家庭料理の調理を心掛けている。買出しは毎日で魚が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の不十分な方については、記録し職員に周知徹底をし、水分が摂取できなければ、ゼリーにしたり、形を工夫して摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをして食物残渣物を取り除き、義歯については、每晚洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別的に排泄パターンを確認し、トイレ誘導の声かけ、行動による気づきにより、なるべく自立できるように支援している。	職員の働きかけにより排泄パターンを確認出来、自立できるケースがあり、職員の支援提供の自信にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩したりして体を動かしたり、野菜を多く取り入れた食事を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には隔日。ゆっくり入っていたくために、平日は個浴にし、土・日は大浴槽で入浴してもらったり、変化を楽しんでいる。	“出来得れば毎日”と思っているが利用者の楽しみであるレクなど活動時間を確保するため“隔日”とし、平日は個浴、土日は大浴室としている。但し、利用者の希望、必要のある場合は連日のこともある。	入浴は生きる喜びです。幸いにも当事業所には入浴を嫌う利用者はいないということですので、現状の支援を維持していただくことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人に合わせた日中の休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんファイルを作成。職員は利用者の担当者を決め、薬のセット、残数を確認している。様子の変化はすぐに医師に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩をしたり、天気の良い日には外でレクをしたり、気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食などの機会を作り。生活に楽しみができるようにしている。また家族も協力的に外出させてくれたりしている。	桜や紅葉時季にドライブで外出するほか、外食が難しい利用者に配慮して喫茶店でパフェを食べるなどしている。また、日々の買い物に同行する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、管理能力はない為、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に連絡したいときには、電話も使用している。それによって、気分が安定したりする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時や行事の写真を掲示したりし、明るさや室温なども常に配慮している。テーブルには、花を飾ったりしている。	木質を基調とした居間は明るく、廊下も広く、訪れる者の気持ちが和む。また、敷地が広い ため、扉の外へ出ても安心であり、暖かい日は気持ちがよさそうである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の談話室にもソファを置いたり、冬はコタツを敷いたりして、テーブル以外にも過ごせる場がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て個室で、家で使用していたものを中心に持ってきていただき、混乱のないような配慮をしている。	事業所は利用者が家で使用していたものをもってきていただくよう家族に働きかけている。入口には表札があり利用者のプライバシーに配慮している。また、居室からは庭が見え開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者にとってできること、できないことを見極め、実行する。危険なものは排除し、安全な環境を作っている。		